ならの
みやこの
しょくぶつえん

土の中の花鳥風月

The Summer Exhibition for Children at The Nara Palace Site Museum

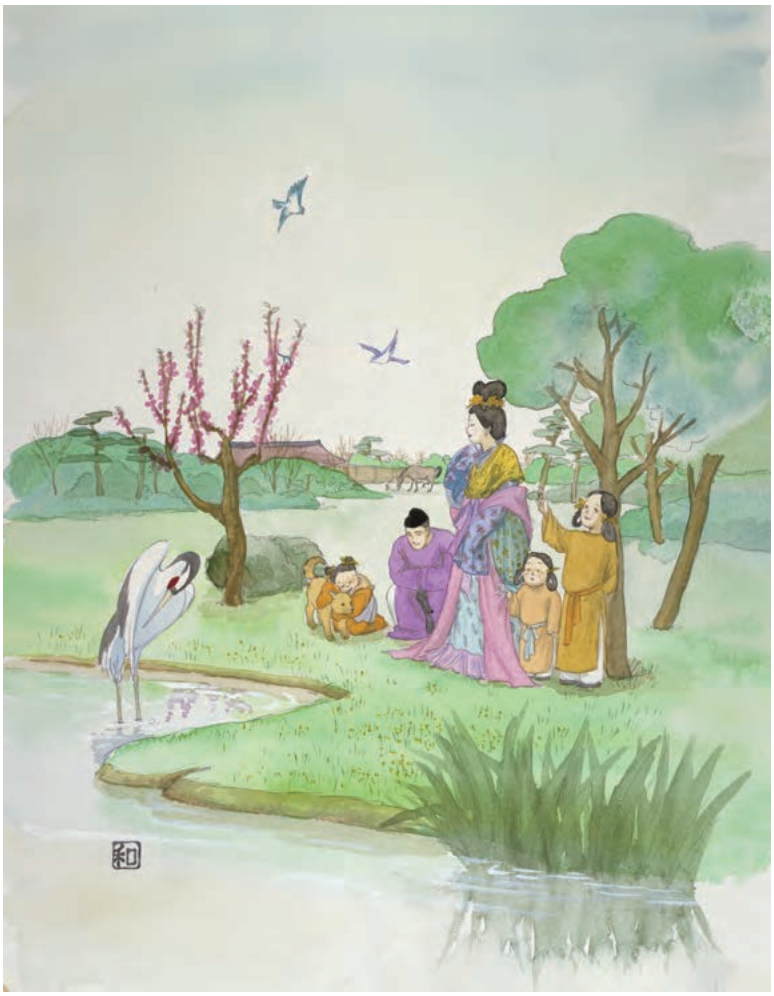
Gardens in the ancient capital of Nara : The Unearthed Natural Beauty

平城宫遗址资料馆 夏季儿童展《平城京植物园 : 发掘出的花鸟风月》

헤이조궁유적자료관 여름 어린이 전시회《헤이조쿄 식물원: 발굴된 화조풍월》

凡例

1. 本書は、奈良文化財研究所平城宮跡資料館でおこなう 2019 年度夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん－土の中の花鳥風月－」（会期 7 月 20 日～ 9 月 1 日）にあわせて編集したものである。
2. 本展覧会は、奈良文化財研究所企画調整部展示企画室が企画、実施し、奈良国立博物館が共催した。
また、文化庁、国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、平城宮跡管理センター、平城京 再生プロジェクト、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、株式会社南都銀行の後援を賜った。
3. 本書は、企画調整部長加藤真二・廣瀬智子が執筆し、廣瀬が編集を担当、座覇えみ、藤田友香里が協力、福島冠如が補佐した。
本書の資料写真は、企画調整部写真室中村一郎が撮影し、鎌倉綾が補佐した。本書の作成にあたり、今井晃樹、岩戸晶子、浦蓉子、上中央子、大澤正吾、芝康次郎、中田愛乃、馬場基、福嶋啓人、星野安治、山本祥隆が協力した。
4. 本書の万葉集の表記は、岩波書店の『萬葉集　新古典文学大系』に拠った。
5. 掲載している遺物写真の縮尺は任意である。
6. 挿図のイラストは、早川和子の作画による。
7. 本書の作成にあたって、植物の画像及び情報の提供を次の方々より賜った。記して感謝いたします。（五十音順・敬称略）
岡本和男、永岡美和



ならのみやこ“平城京”。

そこに住んでいた人々や地方からやってきた人々は、

どんな木々や草花に代表される自然の美しさにふれ、なにを想ったのでしょうか?

遺跡から出土する木簡、土器や瓦などの考古遺物、

タネや花粉などの自然遺物、

そして万葉集などをてがかりに、

どんな花や草木が植えられていたかを考えてみたいと思います。

I 【ほんとうにあった。ならのみやこの「しょくぶつえん」】

ならのみやこ「平城京」には、ほんとうに「植物園」のようなところがありました。いくつかみてみましょう。

①平城宮のお庭・菜園

平城宮やそのまわりには、“苑”と呼ばれたお庭がいくつもありました。復原された東院庭園もそのひとつ。いろいろな植物が植えられ、一部は畑や薬草園としても使われたんだって。
園池司という役所が、管理の一部をしていたと考えられているんだよ。

17ページでもでてくるよ。

平城宮の近くにあるお庭・菜園

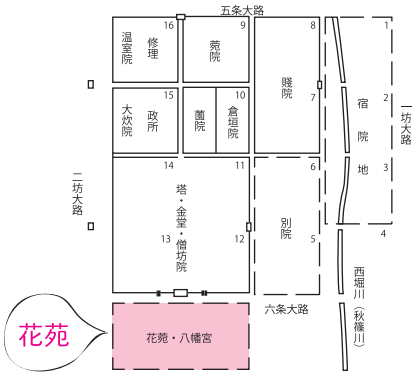
②貴族のお庭・菜園

長屋王をはじめとする大貴族のお屋敷にはお庭がつくられていました。
また、「薗」という菜園(畑)も各地にもっていて、そこからいろんな作物が運ばれていたんだよ。

8ページのハスの葉っぱもそのひとつ。

③お寺のお花畑

お寺では、仏さまへのお供え物、さまざまな儀式などに、たくさんのお花が必要です。
このため、「花苑」とよばれるお花畑があって、そこでたくさんの草花が育てられていたんですよ。



薬師寺の花苑があったとされる場所
（復原・福山敏男『薬師寺伽藍の研究』宮上茂隆より引用）

どんな草木、花々が植えられていたか…？
つぎに、遺跡からみつかった植物をみてみよう！

II

【遺跡から みつかった植物】

松 マツ

マツは、ほかの木が葉っぱを落とす冬でも青々とした葉をつけています。そのため、天から神様が下りてくる木と考えられ、おめでたい木とされていたんだよ。マツは、森や林の木を切った後の場所に生えてきます。奈良時代よりも前の時代から、木々が切られていた平城京の周辺では、マツ林がたくさん見られたのかもしれませんね。

みなさんもよく知ってるマツボックリ。
1300年前の遺跡からもみつかっているんだよ。
昔も今も、見た目はかわりませんね。

「松原」の草刈りを17人でおこなったことが書かれた木簡。リーダーとして、「中衛」という警備の兵士がついたんだって。この「松原」は、平城宮の北にあった広大な「松林苑」だったと考えられています。何人で草刈りしたのかがわかるだなんて、おもしろいね。

檜扇(木でできた扇)のうらに、マツの絵が描かれているよ。とっても上手だと思いませんか?
正倉院宝物で似たような絵柄があるんだよ。
本物の絵描きさんが描いたのかもしれないね。

II

【遺跡から みつかった植物】

蓮 ハス 花

奈良時代に全国に広まった「仏教」と「蓮」は、とても関係が深かった。

奈良時代、ハスの花は、池だけでなく、なんとお寺や宮殿、役所、貴族のお屋敷など、大きな建物の屋根の軒先にもならんで咲いていました。
そう、丸い瓦の花模様は、ハスの花なんだよ。
このほか、ハスの花は土器に描かれたり、お寺の仏像や道具をかざったりしているよ。

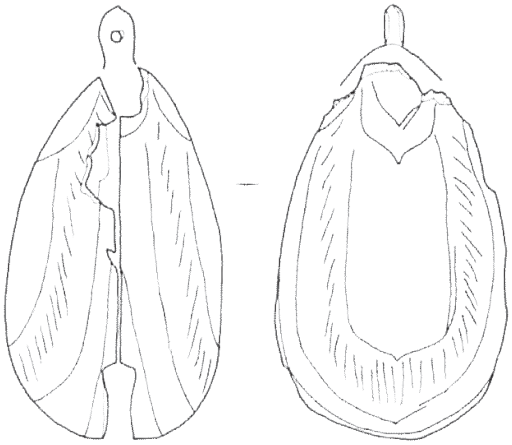
これは、ハスの花ではないかもしれないんだ。なんのお花かなぁ…?

三彩(さんさい)のあざやかな多口壺(たこうつぼ)には、ハスの花をこのようにかざって、仏さまにお供(そな)えしていたのかもしれませんね。

平城宮・京から出土したいろいろな蓮華文軒丸瓦(れんげもんのきまるがわら)

花びら1枚をとりだしてみるとわかるかなぁ?

垂飾金具(すいしょくかなぐ)(薬師寺出土)



お寺から出土したキラキラの金具にも、ハスの花びらが…!

II

【遺跡から みつかった植物】

蓮 ハス 葉

夏の宴会につかわれたうつわ。

ひさかたの　雨も降らぬか
蓮葉に　溜まれる水の
玉に似たるを見む

万葉集巻十六の三八三七

雨でも降らないかなあ。そうしたら、
蓮の葉にたまっている水が
玉にそっくりなのを見よう。

歌作りが上手なみやこを守るある役人が、宴会でよんだ歌です。
その宴会では、ごちそうがすべてハスの葉に盛り付けられていたそうですよ。
当時は、葉っぱをお皿のかわりにすることが多かったみたい。5月は青い柏の葉、
夏はハスの葉、その他の季節には干した柏などが使われたんですって。

片岡　進上　蓮葉　卌枚　持人　都夫良

女　六月　廿四日　真人

←「都夫良女」という女の人が、ハスの葉っぱ40枚を片岡（奈良県葛城郡王寺町・香芝市あたり）から長屋王という貴族のお屋敷（奈良市内）まで運んだことがわかる木簡。
一回に運んでいる葉っぱの枚数は、だいたい30～40枚なんです。これは、長屋王のお屋敷の宴会一回で使う枚数だと考えられているんだよ。
別の場所から出た木簡には、ハスの葉をなんと！200枚も送られた例があります。宴会の規模によって必要なハスの葉の枚数もちがっていたんでしょうね。

長屋王のお屋敷のあとからでてきたハス！

お花かなぁ？
それとも、宴会でつかったあとの葉っぱかなぁ？
ハスの実が入っている部分かなぁ？

1300年前の状態のままで出てくるなんて…
すごいですよね！

ハスの実入りごはんもあったみたい。

奈良時代の料理として復原された、ご飯を
ハスの葉で包んだちまきのようなもの。
葉っぱはお皿になるだけではなく、料理に
も使われたんですね。

ハスの実→

II

【遺跡から みつかった植物】

瓜 ウリ

遺跡からは、とってもたくさんのウリのタネがみつかります！タネのある部分はおいしいからタネごと食べたみたいだね。

瓜食めば　子ども思ほゆ
栗食めば　まして偲はゆ
いづくより　来たりしものぞ
まなかひに　もとなかかりて
安眠しなさぬ

万葉集巻五の八〇二

瓜を食べると子どものことが思われる。
栗を食べるとまして偲ばれる。
いったいどこからやってきたのか
その面影が目の前にむやみにちらついて
安らかに眠らせてくれない

現在のマクワウリ

出土したウリのたね

瓜一駄　負瓜

合百九十六果　天平八年七月十五日

←天平8年（736）の7月15日にウリを送り届けていることがわかる木簡です。
暑い中、皇后宮（こうごうぐう）を守る兵士（へいし）ののどを潤（うるお）すためにウリが食べられていたんだって。
「一駄」とは、「馬一頭にのせてきた」、という意味で、「負瓜」は馬に「のせていたウリ」、という意味なんだよ。
馬で運ぶウリの数は、大きさにもよって、100～200個くらいだったみたい。

II

【遺跡からみつかった植物】

葡萄
ブドウ

ブドウが鏡に表現されています。
遺跡からもブドウのタネがでてくるんだ。
でも、小さいので、ヤマブドウやノブドウなどのような小ぶりな実だったみたい。
食べるよりも、布をそめる染料として使われることが多かったみたい。

ブドウのたね

ブドウ
はっけん!

海獣葡萄鏡

II

【遺跡からみつかった植物】

紅花
ベニバナ

紅に　染めてし衣
雨降りて　にほひはすとも
うつろはめやも　万葉集巻十六の三八三七

紅花で染めた衣は、
雨が降って
色が美しくあらわれることはあっても、
あせることがありましょうか。

辛紅　両面

↑「辛紅」は深紅、「両面」は二重織りの織物のこと。
紅花で染めた紅色の布のことをさしているのかな。

番外編

発掘でみつかっていない?! まぼろしの植物

柳 ヤナギ

春の日に張れるヤナギを
取り持ちて見れば
都の大路思ほゆ

春の日に、芽をふくらませた柳の枝を
手にとって見ると
奈良の都の大路が思われることだ

万葉集巻十九の四一四二

ヤナギの新芽

↑大伴家持という人が奈良の都を思いだしてよんだ歌。
「都の大路」という表現から、平城京の大きな道路(大路)に植えられていたと考えられています。鳥取県の古代の道路の遺跡からは、街路樹のヤナギがそのままみつかっているんだよ！　でも、平城京ではまだ発掘調査でみつかっていないんだ。
いつの日かみつかるかも…?

右京四条

槐花六斗

槐 エンジュ

平城宮跡歴史公園「朱雀門前ひろば」にありますよ。みつけてみてね！

二条大路南側にあるエンジュ

← 平城京の右京四条から届けられたエンジュの花の送り状の木簡です。街路樹として植えられていたエンジュの花は、みやこの各地から薬の材料として届けられていたみたい。
ヤナギとともに、街路樹として植えられていたとされているけど、花粉やタネは、発掘されていません！

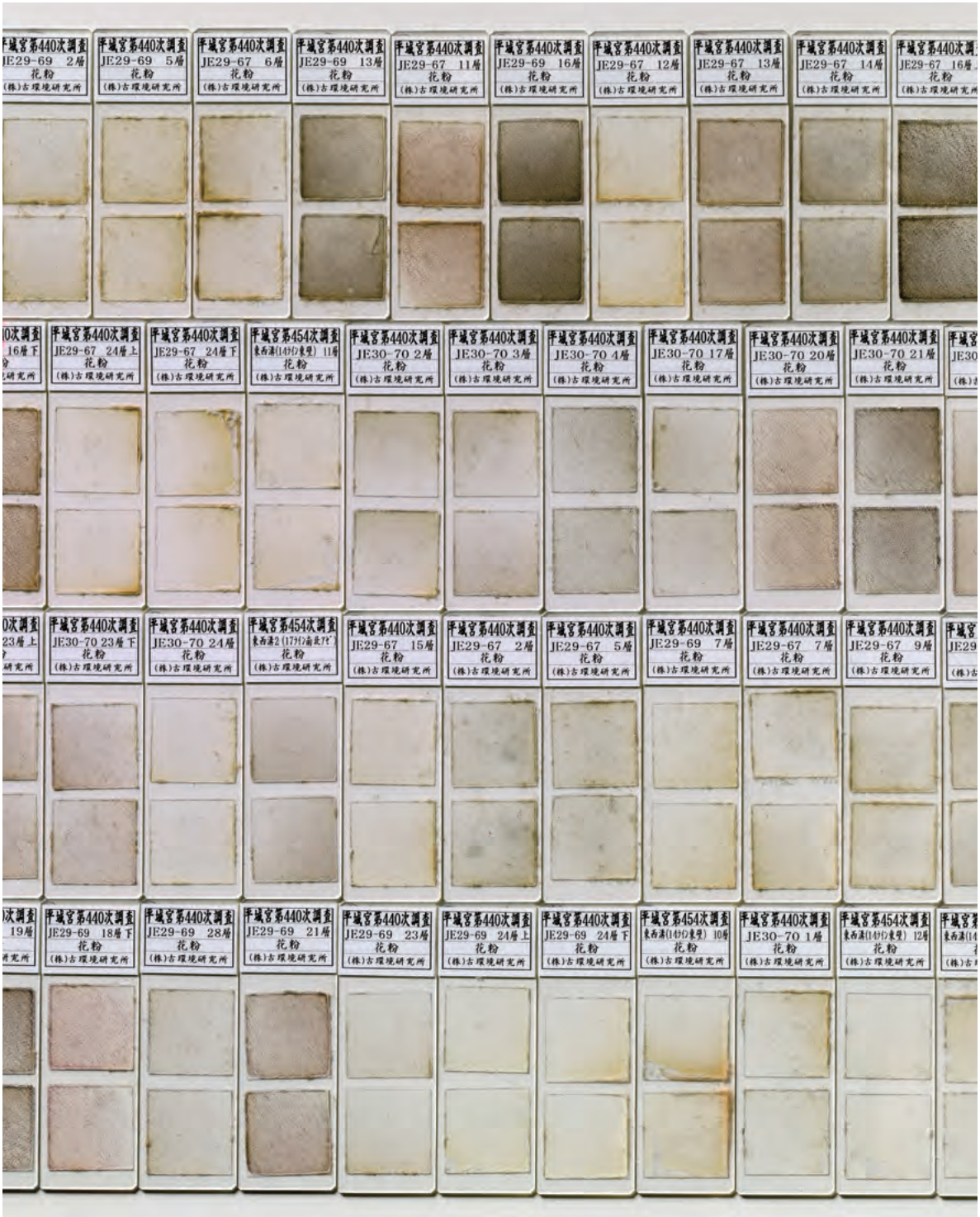
エンジュのつぼみと花

ハギの花

萩 ハギ

ハギは、万葉集で多くよまれている花なので、奈良時代には身近な植物だったと考えられるけれども、花粉などはまだみつかってないよ。

これはなんでしょう？



遺跡（いせき）からでてきた花粉を分析（ぶんせき）するためのプレパラートです。

ここから、どんなことがわかったのかな？

平城宮で天皇や役人がみた植物とは?

平城宮で役所が集まっていた地区のひとつである「東方官衙地区」というところから、大きなごみ捨て穴(SK19189)がみつかりました。そのなかから、みつけだした「花粉」や「タネ」について紹介するよ!

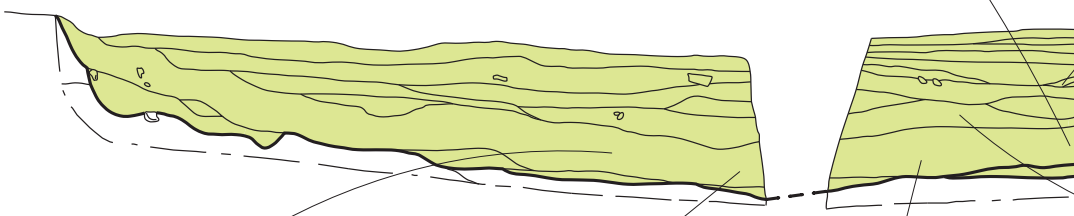
ここでわかった植物は、日ごろ東方官衙で働いていた役人たちが、仕事のあいまに見たり、食べたりしていたものなんですよ。

みなさんが目にしたことのある身近な草花もきっとあるはず…!

1300年前、平城宮に生えていた草花

カタバミ属

イネ科・ヨモギは
どの層からも出てきたんだって。



エノコログサは
「ねこじゃらし」のことだよ。

エノコログサ属

アカザ科・ヒユ科
オミナエシ科

ナデシコ科

東方官衙地区の大きなごみ捨て穴（SK19189）

ごみ捨て穴の断面

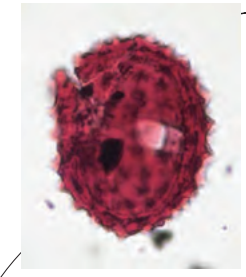
ここで見つかった植物のタネや花粉から、このゴミ捨て穴が埋まった当時、この場所は日当たりがよくて、乾燥した環境であったことがわかったんだよ。

断面を図にすると…

現代の平城宮跡でもよくみられる花だね

11ページで紹介した紅花もでてきたよ！

花粉が遠くに飛ばない植物なので、近くに花が咲いていたみたい。

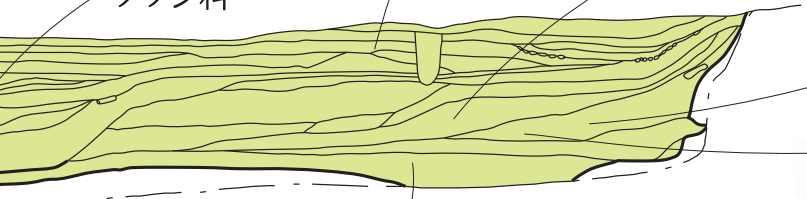


ベニバナ

タデ属サナエタデ節

チドメグサ亜科

ツツジ科



ザクロソウ

0　2m

カヤツリグサ科

ギシギシ属

かわった名前の「ギシギシ」。奈良時代には「羊蹄」と記されていたんだ。どう利用していたと思う？このあと紹介するね。

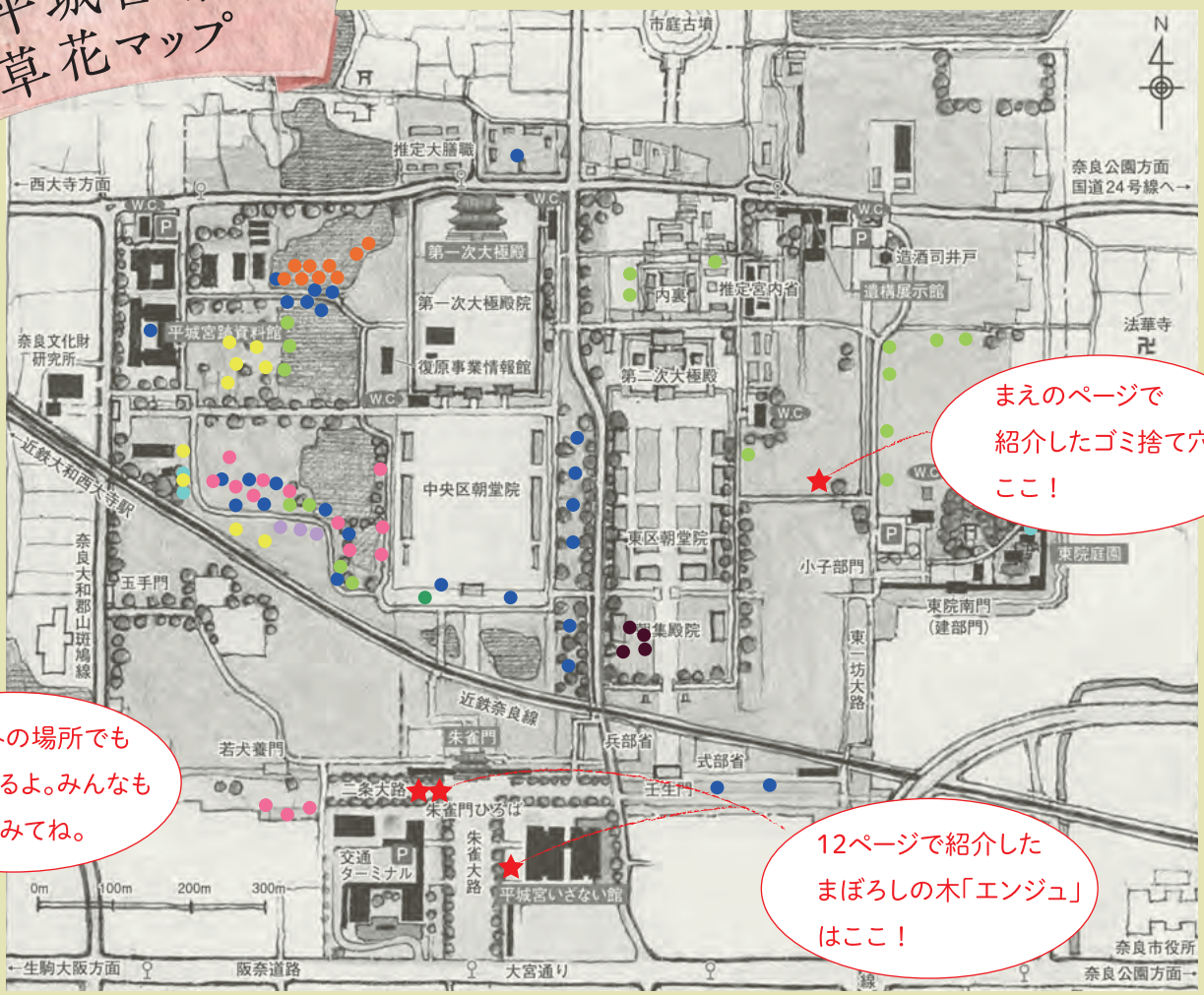
ここで見つかった植物、現代の平城宮跡でもみることができるんだよ。

いまの

平城宮跡 草花マップ

奈良時代のゴミ捨て穴から みつかった草花のなかまを、さがしにいこう

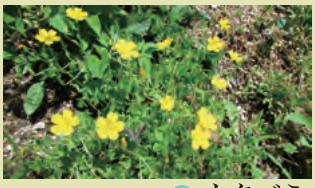
＊＊　1300年前から、ずっとそこに生えていたわけではないけれど…　＊＊



＊ ● カタバミ5〜9月
● カヤツリグサ(イネ科)8〜9月
＊ ● アキノノゲシ(キク科)8〜11月
＊ ● エノコログサ(イネ科)7〜9月
＊ ● メヒシバ・オヒシバ(イネ科)8〜9月
● アシ(ヨシ)
＊ ● ニガナ(キク科)5〜7月
＊ ● スイバ(ギシギシ属)5〜8月
● ノミノフスマ(ナデシコ科)3〜8月

＊印は、宮跡のどこでもみられるよ。

● スイバ（ギシギシ）


● カタバミ

● エノコログサ

● アキノノゲシ

● ニガナ

● カヤツリグサ

● ノミノフスマ

● オヒシバ

● メヒシバ

番外編

菜園で育てられていた植物にはこんなものがありました

園池司から食用の植物が運ばれたことがわかる木簡です。
青菜を中心とした7種類の植物が記されているね。
実は、いまでも見られる身近な草なんだよ。
この7種類のお野菜は、尼さんへふるまった料理のおかずなんだって。

園池司

園池の管理や、お野菜・果物を育てて収穫し、宮に運んだりしていた役所なんだって。なんと！クジャクを育てていたこともあったらしいよ！

毛付瓜

トウガン
ウリのタネは平城宮からたくさんでてくるね。（10ページ）

カブの葉っぱ

蔓菁
アオナ

アオイっていう花みたことある？
ここでは、フユアオイの葉っぱが食べられていたと考えられているよ。

葵
アフヒ

羊蹄

でました、「ギシギシ」！
1300年前の平城宮でも、現代の平城宮跡でもみることができる草。
奈良時代にはよく食べられていたみたい。

ダイコンの葉っぱ

蘿蔔
オホネ

オホツチ
荼

いまの「ニガナ」か「ノゲシ」のようなものなんだって。
いまの平城宮跡にも生えているから、左のマップもみながらさがしてみるといいかもね。

タデ
蓼

「タデ食う虫も好き好き」ということわざ※があるように、辛みのある味なんだって。
アユの塩焼きといっしょに食べる蓼酢やお刺身のツマなど、現代も薬味として食べられているんだよ。

※からいタデを好んで食べる虫がいるように、人の好みはいろいろだ

前のページで紹介したゴミ捨て穴から出土したものや、現代の平城宮跡でもみられる草もあるね。

IV

天皇や貴族が
植物をながめながら
歌を楽しんだお庭

東院庭園は、平城宮の東南隅につくられたお庭です。
天皇や貴族たちが、宴をして楽しんだところなんですよ。
ここでは、池の中や岸から出土した木のみき、えだ、葉っぱ、花粉、タネなどの種類や位置から、どこにどんな植物が植えられていたのかが推定されています。
これらは、天皇をはじめとする、とてもえらい人たちが目にして、歌によんで楽しんだ植物といえますね。

東院庭園
とういんていえん

センダン

ウメ

モモ

マツ

東院庭園から出土したタネ

植えられている場所

1 発掘調査で枝などがまとまって出土したところ

2 植えられていた木の根っこの跡がみつかったところ

植えられている木の種類

1 発掘調査でみつかったもの

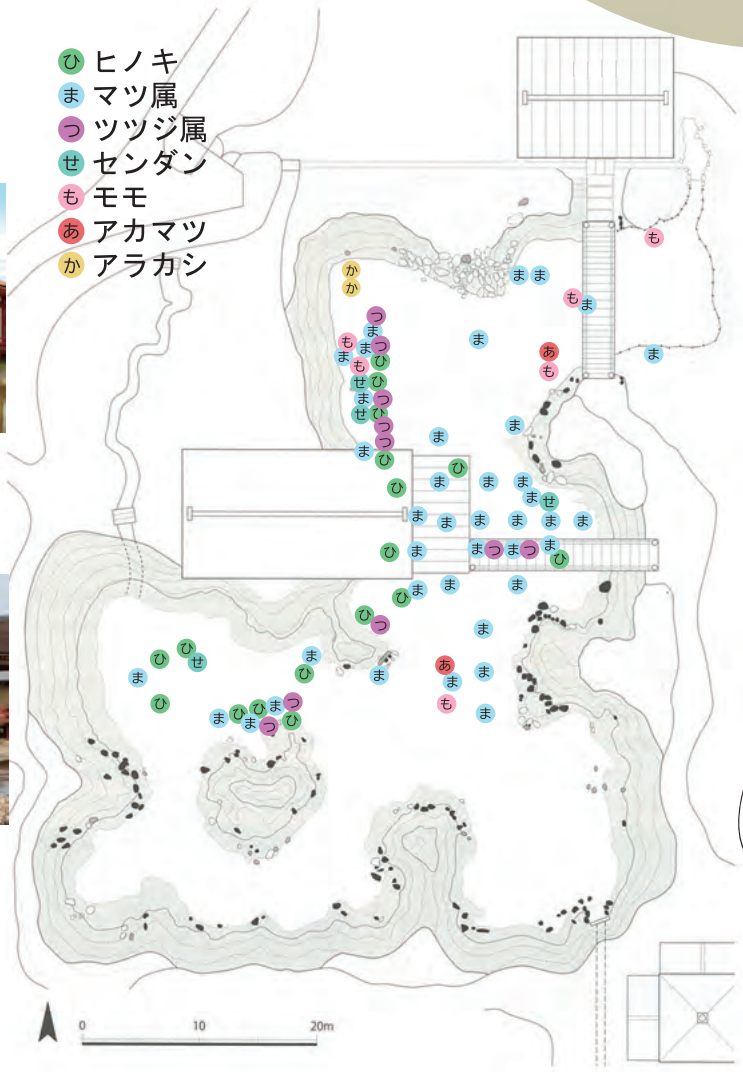
2 昔の植物はみつからなかったけれど、「万葉集」などから、奈良時代にあった可能性が高いと考えられるもの

東院庭園の木々は、
発掘調査でわかった成果をもとに
植えられているんだ。

ひ ヒノキ
ま マツ属
つ ツツジ属
せ センダン
も モモ
あ アカマツ
か アラカシ

マツ

モモ



発掘調査で確認された植物と出土した場所

ヤマモモ

東院庭園は、奈良時代に「楊梅宮」とよばれていたことからヤマモモ(楊梅)を植えているんだよ。

ヤナギ

センダン

ハギ

V

奈良時代のひとが描いた花鳥風月

いろいろな花 つどう鳥たち

奈良時代のひとが目にした花と鳥

鳥は何羽いる？

何の花かなぁ？

こたえ：鳥ほろ羽いもよ。

植物を中心に、ならのみやこの花鳥風月をみてきました。
こうした自然の美しさを古代の人々も楽しんだことでしょう。
みなさんの頭の中に思いうかぶ「ならのみやこのしょくぶつえん」では、
人々は、いったいどんな木々や草花をめで、
どんな鳥たちや虫たちと遊んでいるでしょうか？
このように想像すると、
きっと、ならのみやこや暮らしていた古代の人々が身近に感じられるのではないでしょうか？

平城宮の内裏跡から東を望む(『平城宮跡自然散策ブログ』2016年5月より)

2019年度　平城宮跡資料館　夏のこども展示
『ならのみやこのしょくぶつえん－土の中の花鳥風月－』
発行日　2019年7月20日
発行　独立行政法人　国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577　奈良市二条町2-9-1
http://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/
企画編集　奈良文化財研究所　企画調整部　展示企画室
印刷　能登印刷株式会社